

ECR2014 報告記

国立大学法人北海道大学病院 笹木 工

「きゃ〜っ おかあ〜さあ〜ん、これ、古いヤツだよ〜 どうしよう〜 (T_T)」

新千歳空港の午前7時10分、国際線乗り継ぎの手荷物を預ける青いカウンターに、悲鳴が響き渡った。午前5時起きを目を覚ますにはカフェインよりも効果的な悲鳴である。続けて彼女は隣にいた友人にしきりに謝罪の言葉を発している。手にしているのは紺色パスポート。「お客様…、大変申し訳ありませんがこのままですと、ご搭乗することができません」。仕事に徹している青い制服の女性の言葉は悲鳴をあげた彼女に冷たく突き刺さったに違いない。これから海外旅行に友人と行くようだが、どうやら古いパスポートを持ってきてしまったようだ。「ご搭乗まであと40分です。それまでにお持ちいただかないと… どちらから来られましたか？」と尋ねた後に、札幌から来たという返事を聞いたとき、青い制服の彼女はきっと私と同じ感想を持ったに違いない。

「ダメだ、こりゃ… (いかりや長介風)」 ライトハウス英和辞書によるとトラベル (Travel) の語源は、元来ラテン語で拷問台の意味で、そこから「苦しみ」・「つらいこと」を経て「旅行」の意になったとある。拷問にあったのは彼女ではなく、彼女の友人であることは間違いなさそうである。成田からウィーンまでのフライトはいつも利用している青い航空会社と提携しているということもあり、千歳で預けた手荷物はウィーンで受け取ることができるという説明を受けた。よろしくお願ひいたしますと伝え、私は何のトラブルもなくAirbus A320に乗り込んだ。

ウィーンまではAustria航空が連れて行ってくれる。前側の広い席でウェルカムドリンクを飲んでいるヤツを横目で見ながら「千歳発着、往復15万でおつりがくるんだゾ〜 まいったかっ！」と、負け惜しみをつぶやきながら自分の狭いシートに腰を下ろした。勿論、本当に参ったのは自分である。ほどなく、客室確認のためかCAさんがやってきた。驚いたのは制服の色である。とにかく赤い。ジャケットとスカートは理解できるがジャケットの中のブラウス、ストッキング、果ては靴まで… 目に痛いぐらいの赤である。Austriaの国旗は赤・白・赤の横ストライプであるため、会社のカラーは赤であることは容易に想像できる。「国旗同様、どこかに白をいれんかいつ！」とツッコミたかった。座席前面にはモニターが装備され映画をみたり音楽を聴くこともできた。USBポートから給電することも可能で、電源の心配することなくNexus7の中に入れておいた、かわぐちかいじ作の沈黙の艦隊を読破した。11時間のフライトでもヒマをもてあますことはなかった。



確認は念入りに



B777-200ERがはこんでくれます

同行した当院放射線科医2名、後輩と計4名で、滞在期間中に利用する地下鉄などが一定時間乗り放題になる「The vienna card (72時間有効, €19.9)」を購入してからバスでウィーン市内へ向かった。バスを降りた瞬間、そこは「ヨーロッパ」であった。街並みが日本やアメリカと全く異なる。何がヨーロッパなのかというと、とにかくヨーロッパなのである。中世を思わせるような佇まい、どこことなくレトロな路面電車、雰囲気がるで違う。北緯48°で札幌より北に位置する

ウィーンであるが雪が全くなくとても暖かった。だが街ゆく人々の服装は札幌とそれほど差はなかった。札幌市とほぼ同じ人口であるが、地下鉄（5路線もある）、路面電車、バス、国鉄など公共交通機関が大変充実している。後日Austriaの税制を聞く機会があった。消費税は20%、基本的な食品は10%（嗜好品は20%）だそうである。病院や出産費用などは無料。高い税金の使い道は公共施設や社会福祉などに使われているようだ。高い税金をとられて何ら還元されないようであれば、170万人も住むはずがない。学会会場への移動や夕食をとる際は地下鉄を利用した。驚いたのは改札がないことである。地下鉄だけではなく、帰りに利用した国鉄も同様である。駅員もいなければ改札機もない。ガイドブックに載っていたために事前に知ってはいたが、目の当たりにすると、違和感というか、拍子抜けした感がある。おおよそ改札機にはほど遠い小さな青い箱がある。この青い箱に購入した券を入れると日時が打刻される。やろうと思えばキセル（無賃乗車）はいくらでもできそうだ。しかし、時折確認することがあるようで（つまり抜き打ち検査。コントロールと言われている）、券を所有していない場合や所有していても打刻していないと罰金が科せられる。片道€2程度の地下鉄で罰金€100もとられたくない…という心理を利用してるのであろうか。最初に購入した券が時間切れになった後、まだ2日ほど滞在時間があったために一瞬購入をためらったが、罰金を払うよりは良いと思い48時間券を購入した。



ほぼフリーパス？



地下鉄は自分でドアを開ける



宿泊先に近い地下鉄駅入り口

さて、前置きが長くなったが本題の学会報告に入る。

皆さんはJRCへ参加する前に、どの演題を聞くのか、もちろんランチョンセミナーや分科会、各種講座も含めて、事前に計画を立てて行かれるはずである。総会のwebsiteからPDFをdownloadして「しおり」をつけたり、Google calendarに書き込んだり、送付された予稿集をそのまま持ち込んだり、印刷したり…各人それぞれの方法があると思われる。ECRにはInteractive Program Planner(IPP)が用意されている。専用siteにloginすると、日付、時間、session、トピックの各項目で検索が可能である。「3/9の10時から13時の間にやっているCardiac関連の演題は？」というような検索が可能である。検索結果の画面で自分の聴きたいものがあるときは、Online shoppingのように「Add my basket」を押す。後で「My Basket」をみると聴きたい演題が一覧表示される。それをPDFに書き出せたり、Google calendarに同期することもできる。大変便利な仕組みであり、非常に助かった。初日に聴講したのは、そのIPPを利用して探したSS113 - Advances in CT technology and applications である。某社の新しい検出器やDual Energy、メタルアーチファクトの除去など、技術学会でもよく聞くような単語が並んでいたこともあり、比較をするには丁度良いのではないかと考えた。物理特性の評価はphantomを用いた検討であり（途中難しい数式も並んでいたが）、基本的にはいつも参加している技術学会と大きな違いはない（聞き取れた英語の範囲内での話であり、決して全てを理解している訳ではない）。

「我々（日本の放射線技師）が行っている事は決してレベルの低いことではない。研究内容を広く

知らしめるためにはやはり英語なのか…」 睡眠学習の一步手前、徐々に遠のく意識の中、理解できなくなってきた英語を聞きながら感じたことである。お昼には各メーカー主催のランチオンセミナーが行われる。会場入り口に行くと、何やら袋を渡される。まるでエコバッグのようである。表面には主催メーカーの名前があり、中にはサンドイッチと林檎と飲み物とお菓子が入っていた。ああ、これがランチオン弁当なのね…と1人で納得していたが、日本の「弁当」に慣れているとちょっと寂しくなった。RSNAのPC presentationやJRCのCyposの手本となった、ECRのEPOSであるが、EPOS会場は奥のこじんまりした部屋にPCが並べられていた。その広さはITEM展示ホールの1/4以下の広さ。もっと大々的に行っていると想像していたので、拍子抜けだった。また、EPOS会場の隣に、今年から登場した新しいtoolが設置されていた。「大きな縦型外付けモニターがあるiPad」である。演題検索を手元のiPadで行い、表示、閲覧を外付けモニターで行う。これぞまさしく「電子ポスター」である。手元のiPadで大きくするとモニターでも大きくなる。当たり前なのだが、なぜか感動した。「今年から新しいtoolができた。これはoptionだが、よかったら登録しないか？」 ECR開始1ヶ月前にその連絡がきた。締切は約2週間後の2月末。PowerPointとKeynoteのtemplateが用意され、PDFで書き出しをしてuploadすればよいとのことである。KeynoteなどでEPOSを作っていたこともあり、ファイルはすぐに完成し、早速登録をした。しかし、その登録した自分のポスターが検索できない。係に尋ねてみると係の方が使用したPCには登録されていたようだ。でも検索されないと伝えると、「電子ポスター」システム担当者がやってきて、「1ページのPDFじゃないと対応できない」といわれた。確かに自分は2ページのPDFを作ってuploadした。その後、何も連絡がないので無事に登録が完了し、動作も問題ないと思い込んでいた。残念ながら自分のポスターを表示することはできなかったが、今後はこのようなtoolが増えると思われる。



カーテンを閉めず、明るい会場
ビデオ・写真撮影OKでした



大型外付けモニター
付きiPadです



三角の支柱は回転します

帰国するために空港へは国鉄（ÖBB：えーべーべー）を利用した。宿泊先のホテルから最も近い地下鉄駅から1つECR会場側の駅、Praterstern（ぷらたーしゅてるん）駅。そこに空港へ行く電車が乗り入れている。空港へは市内とエリアが異なり、まだ48時間券が有効であったため、圏外へ乗車するための€2.1の券を購入した。駅のホームで待つこと20分。空港方面へいく列車が到着した。さてスーツケースを持ち上げようとする持ち上げられない、はち切れんばかりのスーツケースであったが、それ以上に段差がすごい。日本では考えられないほどの段差である。後輩に手伝ってもらいようやく持ち上げた。空港の駅に着いても同様で下ろすのも一苦勞。安いとそれなりの苦勞がある。

無事に千歳まで戻ってきた。ガラケーだった私の通信手段であったレンタル携帯電話を返却すべく、国際線ターミナルに向かった。その途中、国際線乗り継ぎの手荷物を預けるカウンターの前を通過した。その時にふと思い出した。そういえば、間違えてパスポートを持ってきたあの彼女はどのようなのであろう。いるはずもないが辺りを見回した。無事に出発できたのであろうか？ やっぱ無理だったのか？ 係員は大変だっただろうな… 彼女の友達との仲はどうなったのか… いらぬ想像をしながら、日本に帰ってきた安心感に浸ると同時に、このまま荷物を預けて今すぐにもViennaに戻りたい自分がそこにいた。

こんなもの、たべました～ オーストリア料理ご紹介コーナー



ウィナーシュニッツェル (Wiener Schnitzel)
「薄くて大きなトンカツ」が最も想像しやすい表現か？
使用する肉は仔牛か豚。薄切りの肉を叩いてのばし、
食用油またはラードで揚げたもの。薄いとは言え、
かなり大きい (iPhoneと比べてください)。
塩・コショウで味付けしてあるので、食べるときはレモンを搾るだけです。塩が結構きいているので、ソースなどはつけずにレモン汁だけで十分でした。



ターフェルシュピッツ (Wiener Tafelspitz)
「牛肉の煮込み」です。林檎ムース、西洋わさびなどをつけて食べます (写真の他にソースが3種類ありました)。肉料理が多い土地ですが、これは比較的軽めで日本人向けだと思います。



ザッハートルテ (Sacher Torte)
国立オペラ劇場のすぐ近くにホテルザッハーがあり、そのcafeで食べられます。お土産用は木箱に入っています。現地ではなく家で食べました。
お味ですか？ 半端なく、甘いっす！！
もう一つ、DEMEL (デメル) 製もあるようですが甘いのが苦手な私は、もう結構です…

<http://shop.sacher.com/original-sacher-torte.html>